

大津企業景況調査報告書

(第50回)

平成22年 7月～ 9月期 実績

平成22年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成22年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	15社	75.0%
製 造 業	10社	10社	100.0%
卸 売 業	10社	9社	90.0%
小 売 業	30社	25社	83.3%
サービス業	30社	23社	76.7%
合 計	100社	82社	82.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成22年7月～9月とし、調査時点は平成22年9月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感、円高の進行等で再び悪化

平成 22 年 7 月～9 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、緩やかな改善傾向から前四半期は急速に改善したが、今四半期は円高の進行等の影響で再び悪化した。売上をはじめ各指標とも悪化した。業種別では、業況判断 DI が製造業では前年と不変であるが、卸売業では前年比プラスから再びマイナスに転じ、建設業をはじめ小売業、サービス業ではマイナス幅が拡大した。先行き見通しは、家電エコポイントやエコカー減税など政策効果のはげ落ちや円高進行等の要因により一進一退するようみられ不透明感が高まっている。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は再び悪化

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、5 期連続改善し前四半期は▲10 となっていたが、今四半期は円高の進行や個人消費の伸び悩み等により▲29 まで再び悪化した。製造業は±0 であるが、建設業をはじめ他の業種でマイナスが増加した。特にサービス業は▲52 と厳しい状況である。

□ 売上 DI（前年同期比）は全業種で減少

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前四半期の▲11 から今四半期▲40 と悪化幅が拡大した。業種別にみると、前四半期にプラスに転じた製造業、卸売業を含め全業種で大幅に悪化した。特に小売業、サービス業で悪化幅が大きい。

□ 採算 DI（前年同期比）は全業種で悪化幅が拡大

「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲10 から今期▲34 と悪化した。業種別にみてもほぼすべての業種で悪化幅が拡大した。

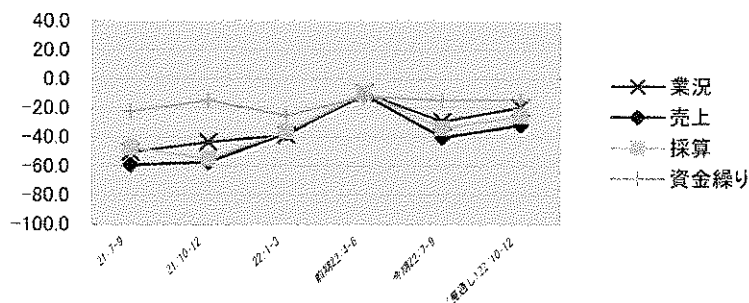
□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は悪化が続く

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲12 から今四半期▲15 と悪化が続いている。長引く不況による業績の悪化が影響しているとみられる。

□ 従業員 DI（前年同期比）はやや過剰感が減退

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の▲6 が今期▲4 と、やや過剰感が減退した。業種別にみると、卸売業で過剰感がなくなった以外は前四半期とほぼ同じである。

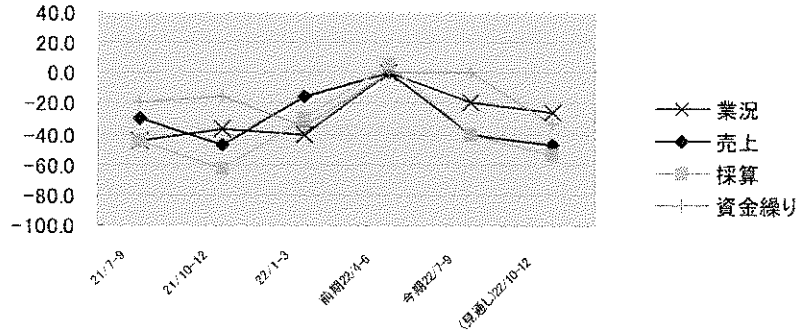
主要4項目DI指数推移グラフ(全体)



建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0 から今四半期▲20 と悪化した。「売上」は前四半期の±0 から今四半期▲40 と大幅減少し、「取引の問合せ」は前期の▲39 から今四半期▲40 と低調が続いている。「採算」は前四半期の+6 から今期▲40 と大幅に悪化し「採算水準」は赤字が増加した。「従業員」は前四半期の▲11 から今四半期▲7 と過剰感がやや減退した。「資金繰り」は前四半期の±0 (不変) が今四半期も続いている。

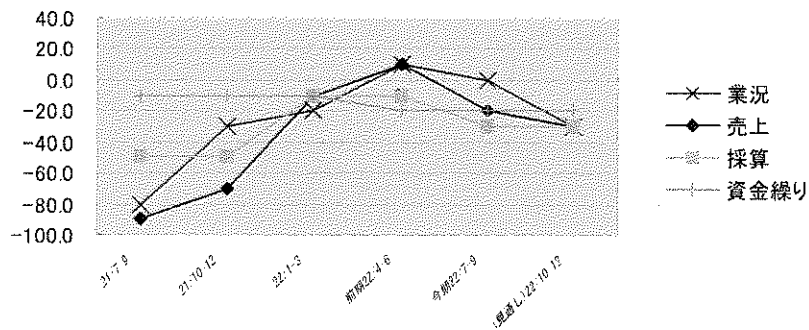
主要4項目DI指数推移グラフ(建設業)



製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+10 から今四半期は±0 と改善の動きが止まった。「採算水準」は前四半期と同じ+30 の経常黒字を今四半期も維持したままであるが、「売上」が前四半期の+10 から今四半期▲20 に減少し、「取引の問合せ」は▲20 と低調であり、「従業員」も▲30 (過剰) のままである。円高の進行により大手製造業の回復の動きが鈍り、それがいち早く地域の中小製造業にも及んできたためとみられる。

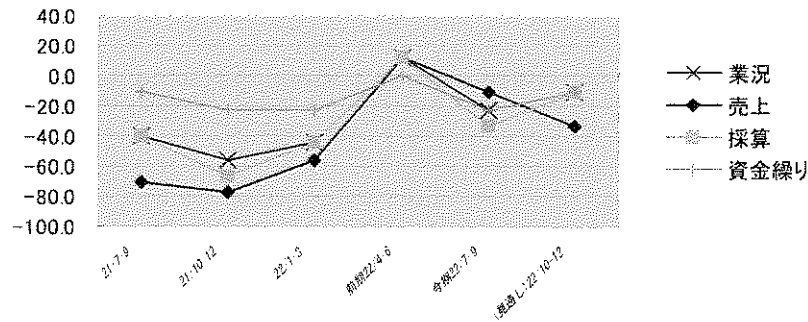
主要4項目DI指数推移グラフ(製造業)



卸売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の+13から今四半期は▲22と再びマイナスに転じた。これは「売上」が前四半期の+13から今四半期▲11と減少に転じ、「採算」も前四半期の+13から今四半期▲33と悪化したためとみられる。「取引の問合せ」は前四半期の▲38から今四半期▲44と低調が続いている。「資金繰り」は前四半期の±0（不変）から今四半期▲22と悪化した。

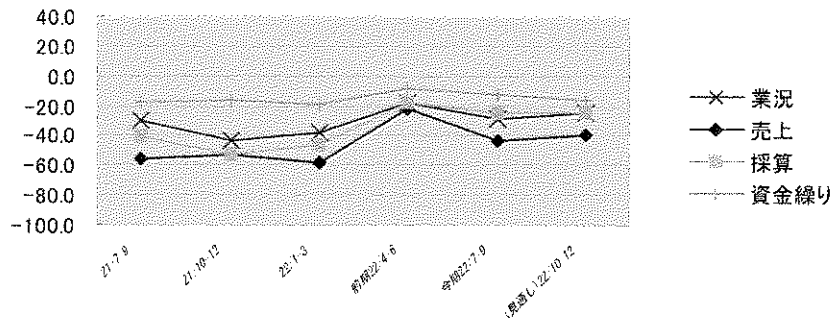
主要4項目DI指数推移グラフ(卸売業)



小売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲17から今四半期は▲28と悪化した。「売上」は前四半期の▲22から今四半期▲44と大幅に減少し、「採算」は前四半期の▲17から今四半期▲24と悪化し、「取引の問合せ」は前四半期の▲26から今四半期▲40と悪化した。個人消費の低迷、デフレの進行に加え、クレジット会社の自主規制によりローンが使いづらいうようなことも影響しているようである。

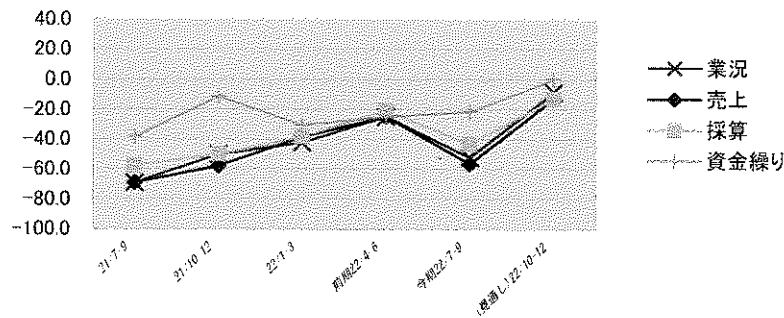
主要4項目DI指数推移グラフ(小売業)



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲25 から今四半期は▲52 に大幅悪化した。「売上」は前四半期の▲25 から今四半期▲57 に大幅減少し、「採算」も▲21 から▲44 に悪化した。「取引の問合せ」は▲42 から▲52 と低調で、「資金繰り」は▲25 から▲22 とまだ悪化が続いている。このように個人消費の低迷、法人需要の伸び悩みで業況は厳しい状況が続いている。

主要4項目DI指数推移グラフ(サービス業)



3ヵ月後の見通しについて、全体の「業況」は悪化した今四半期の▲29 から9ポイント改善して▲20 とやや回復する見通しをしている。「売上」は8ポイント改善して▲32、「採算」も8ポイント改善して▲26 の見通しである。業種別の業況判断をみると、円高の進行が足を引っ張る製造業は30ポイント悪化して▲30となる見通しで建設業もやや悪化を見込むが、サービス業は急回復して▲9まで戻る見通し。卸売業、小売業は少し回復する見通しである。これは回復基調の中で、家電エコポイントやエコカー減税の政策効果のはげ落ちや円高の進行等の要因により一進一退するとの慎重な認識を示しているものとみられる。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前四半期の15%から11ポイント増加して26%となった。製造業が前四半期の30%から40%に増加し、卸売業、小売業、サービス業でも増加したが、建設業では減少した。投資企業の投資内容の割合は更新投資が62%で最も多く、合理化・省力化投資が14%、生産力増加投資はゼロであり、積極的投資はない。投資方針は、「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」とする企業が前四半期50%から今四半期38%に減り、「景気動向によって見直す」が前四半期33%であったが、今四半期は38%に増えた。これは、先行きの不透明感から、将来の設備投資方針を慎重に考えているためとみられる。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は14社であった。

【円高に対する意見】

- ・円高、ドル安、ユーロ安、株安で大変厳しい状況ですが、政府が内需の拡大する政策を早く望む。資金を内に入れ雇用をすすめる
- ・シカゴ市場価格高騰・円高にてヘッジをしても、国内市場の逆ザヤで国内価格は暴落円高還元としての価格下げしている流通があるが、輸入商社には逆ザヤ
- ・日本の経済がいくら頑張っても世界中から為替相場で翻弄され国益を考えることが出来ない政治・・・。

【政府の経済政策に対する意見】

- ・当社の業績はあまり円高に左右されない国内中心の事業であるが中小企業の業績悪化はこれにかかる従業員の将来不安による住宅投資の手控え(エコ減税等の役割が発揮しなくなる)はこわい。
- ・エコカー減税終了がマイナス
- ・消費マインドを高める施策の実施(エコカー補助金の延長、家電・住宅のエコポイントの延長)をとりあえず実施し多少でも景気が回復する方向に努力をしている姿を具体的に示すことが必要と思います。

【今後の経済情勢の不透明感に対する意見】

- ・来期の事は解かりません！
- ・子供手当を出すのも所得制限で考えてほしい。法人税等を下げてほしい。老後の保障を確かなものにすれば、お金をもっと使って下さると思います。
- ・現状の業況(ふつう)ですが、これから先の見とおしが大変むつかしい。代表選がどうなるかにより、読めません。
- ・消費意欲減退の流れが止まらず将来の不安から節約志向へと消費者は引き締まっている
- ・閉塞感がある

【その他】

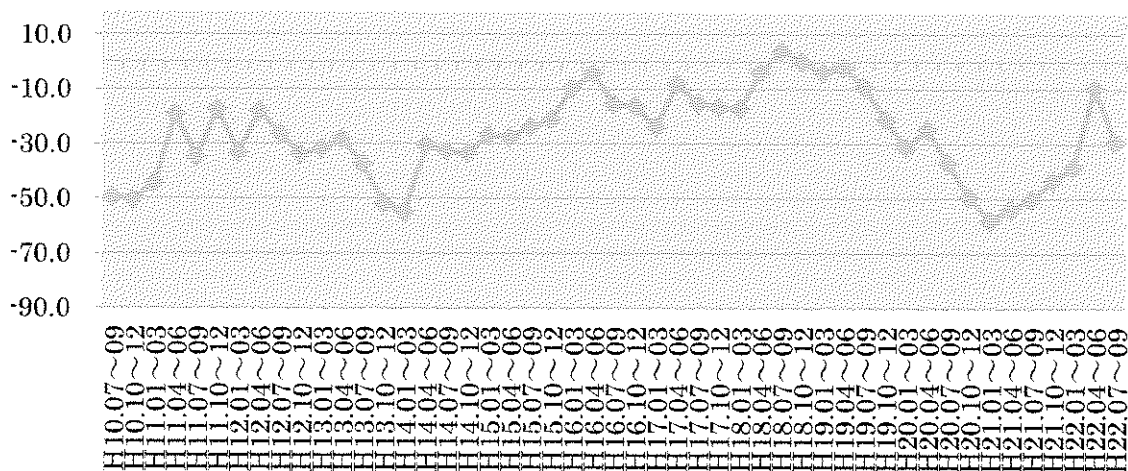
- ・この暑さで好調。しかしやや人材不足
- ・クレジット会社の自主規制により、ローンの契約が取り難い
- ・太陽発電の引き合いが多く来てます。今後の政府の動向でエコポイント等で変化してくると思います。30才の新入社員を採用しました。技術習得に励んでおります。同年代の職人業界の交流等あれば教えてください。又、若手技能士の育成のための基金などは商工会議所としてはないのですか？

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲ 29.3	▲ 19.5	▲ 40.2	▲ 31.7	▲ 34.1	▲ 25.6
建 設 業	▲ 20.0	▲ 26.7	▲ 40.0	▲ 46.7	▲ 40.0	▲ 53.3
製 造 業	0.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 30.0
卸 売 業	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 11.1
小 売 業	▲ 28.0	▲ 24.0	▲ 44.0	▲ 40.0	▲ 24.0	▲ 24.0
サービス業	▲ 52.2	▲ 8.7	▲ 56.5	▲ 13.0	▲ 43.5	▲ 13.0
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲ 15.9	▲ 7.3	▲ 41.5	▲ 32.9	▲ 3.7	▲ 4.9
建 設 業	▲ 26.7	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 6.7	▲ 6.7
製 造 業	30.0	20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 40.0
卸 売 業	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 44.4	▲ 44.4	0.0	0.0
小 売 業	▲ 12.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	4.0	8.0
サービス業	▲ 30.4	17.4	▲ 52.2	▲ 21.7	0.0	▲ 4.3
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資 金 繰 り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲ 14.6	▲ 14.6	▲ 1.2	▲ 2.4	▲ 2.4	▲ 2.4
建 設 業	0.0	▲ 33.3	13.3	6.7	13.3	6.7
製 造 業	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
卸 売 業	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1
小 売 業	▲ 12.0	▲ 16.0	4.0	0.0	0.0	0.0
サービ業	▲ 21.7	0.0	▲ 8.7	▲ 8.7	▲ 8.7	▲ 8.7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（H10.4～6期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>